

授業における視聴覚機器の活用について

— Studyaid D.B. の授業実践報告を中心に —

清水 幸一

1. はじめに

アナログからデジタルへの移行はとどまるところを知らず、インターネットなど、コンピュータを中心とした技術の革新は近年目を見張るものがある。本格的なユビキタス社会の到来もますます現実味を帯びてきている。そのような流れの中で、学校現場においても、教育活動を補助するための視聴覚機器が以前では考えられないくらいに充実してきた。

本校でも、普通教室すべてにパソコンが設置され、ノートパソコン、教室へ持ち運びができるプロジェクターなども職員室に常備されるようになった。LL教室も改修され、LLとしての機能だけではなく、DVDプレーヤー、インターネットに接続できるパソコンなども設置され、マルチメディアに対応した教室となった。設備の充実に伴い、そのような視聴覚機器を教科の授業やホームルームで活用する先生方もかなり増えてきた。私も、放送番組や自分で編集したビデオを活用したことはあるが、何か今までしたことのない活動を行ってみたいと考えていた。

そんなときに、POLESTAR English Course I (数研出版発行)に教科書準拠のプレゼンテーション用 CD-ROM があることを知った。その概略を確認したとき、授業の補助教材として魅力的で新鮮なものに感じられた。以下に授業を通じての実践、結果の考察をまとめてみたい。

2. 実践経過

(1) プレゼンテーションソフトの概要

今回、研究実践の中心的教材となる Studyaid D.B. (教科書指導用 CD-ROM) の特徴について紹介したい。

(ア) スライドショー

各レッスンの最初のページ画面にスライドショー機能があり、レッスンに関連した写真、絵など

に合わせ、ナレーション(音声)も流れる。教科書に掲載されていないデータが多くあり、生徒のそれぞれのレッスンに対する興味・関心を促すことに効果的である。ナレーションは日本語・英語を切り替えることができる。

(イ) 本文プレゼンテーション

教科書の授業に関わるすべてのページが1枚の CD-ROM に収められている。教科書とまったく同じ体裁(教科書を開いた状態)で投影し、同時に簡単な操作で新出単語、本文などの音声を出力することができる。画面は通常表示の2倍の大きさにして表示することも可能である。また、本文中の新しい文法項目など数か所に板書画面機能があり、クリックするとその文法事項の解説画面を出すことができる。ただ、この機能における魅力的な部分は、文法事項の説明よりも話題となっている場所や人物などの背景知識をクリック1つで提示できるところにあると私には思える。なお、この板書画面は印刷もでき、生徒に配付可能である。

(ウ) プリント作成

各レッスンのパートごとの予習プリント、復習プリント、単語小テスト、文法・熟語小テストのデータが充実しており、簡単に作成することができる。そのプリントレイアウト画面もプレゼンテーションすることができ、本文ページと同様に音声を出力し、板書機能を使用することができる。また、データベース問題の検索機能が搭載されており、教科書全体から範囲、キーワード、難易度などを指定しプリントを作成することができる。内容はマイクロソフト社の Microsoft Word、またはジャストシステム社の一太郎で編集することができる。

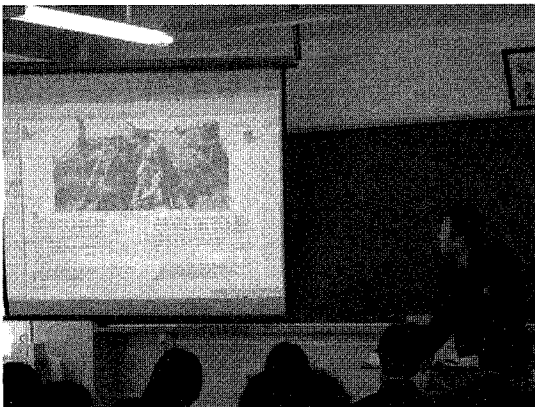
(2) 通常の授業における実践

プレゼンテーションを活用した授業をするにあたり、まず考えなければならないことは教室の使用であった。研究授業のような特別なときにだけ使用するのではあまり意味をなさない。ノートパソコンにデータをインストールし、LL教室と普通教室の両方で活用できるようにした。

音声が出る、教科書にない写真や絵などを提示できるプレゼンテーションソフトという点に魅力を感じたわけだが、使用してみると満足できない点もいくつか出てきた。主な点は、

- (ア) 画面拡大が2倍しかできない(より拡大して文字を見やすくすることができない)。
- (イ) スクリーン上で生徒が文字を読めるためには、サイズの関係で2倍表示をしなければならないが、音声を出力していると画面をスクロールさせたり、次のページへ移ることができない。
- (ウ) 板書画面(文法事項の解説)は必ずしも私が必要と思う箇所とは限らず、また仮にそうだったとしても、用意された解説で満足できないものがある(編集することができない)。

などである。しかしながら、このように不都合な面はあるが、これだけのデータを自作しようとすれば膨大な時間と労力が必要であろうし、現在の私の力では作成することはできない。また、写真などの補助資料も出版版で著作権をクリアしてくれている。そのことを考えると、融通の利かない面を差し引いても(今後バージョンアップされ、解決するかもしれないが)、視覚、聴覚両方にアピールできる市販ソフトとしてはよい出来であると思われる。



▲ Studyaid D.B. を活用した授業のようす

(ア)、(イ)についてはどうすることもできなかったが、(ウ)については自分が必要と思う箇所、効果的だと思う説明方法をマイクロソフト社の PowerPoint を使用して自作することで解決を図った。

授業の中で特に重点的に行った方法は、レッスン最初のスライドショーによる生徒の興味・関心の喚起、スクリーンを見ながらのリーディング、自作プレゼンテーションを用いた解説である。授業を受けた生徒の感想をいくつか紹介したい。

- ・本読みするとき、前(スクリーン)を向いてすることでいつもより大きい声で発声できて、自分の耳に残っていてよかった。
- ・はっきり言って英語は好きな科目ではなかったけれど、スライドショーなどわくわくして授業を受けられた。
- ・英語以外のことに関する説明があったのがうれしかった。
- ・重要表現などは黒板で説明してほしい(後に残るから)。
- ・単語や本文は先生が読んでくれたほうがいい。
- ・パソコンを使わない授業のほうが好きだが、違った気分で受けられるのでたまにはいい。

全体的にリーディング時の自分の声量に満足したり、また写真などでレッスンの内容に興味をもったという意見が多数見られた。

(3) 研究授業

生徒の意見を参考にしてできるところは改善して研究授業を行い、他の先生方のご意見を聞かせていただいた。

この授業においてプレゼンテーションを活用した実践は以下のものである。

- (ア) 前時の復習で英問英答の確認をする際、スクリーン上で答えに関する箇所を提示する。
- (イ) 予習プリント(自作)とプレゼンテーション(自作)の連動をはかる。
- (ウ) 本文を読む際、スクリーンを見て(顔を上げて)発声させる。

授業後の批評会での、プレゼンテーションに関する先生方のご意見を紹介したい。

- ・教科書をスクリーンに映すという試みは新鮮味があった。
- ・顔を上げて(スクリーンを見ながら)のリーディングは声もよく出ており、印象的だった。

- ・自作プレゼンテーションと予習プリントのタイアップは非常に効果的であった。
- ・後ろのほうではパソコン(外部スピーカー設置)からの音声聞き取りにくかった(十分聞き取れたという声もあった)。
- ・音声出力の際、読んでいる箇所アンダーラインもしくは色が変わるなどあればよい。
- ・スクリーン上のは消えてしまうため、もう少し板書を行ったほうがよい。
- ・教員1人で行うと、パソコン操作が煩雑で、時間が有効に使えているようで使えていない。

(4) その他の実践

上記の英語 I での実践以外に、オーラル・コミュニケーション I においては、違う形のプレゼンテーションとしてNHKの放送番組の活用を行った。教科書の内容(場面設定)や使用される重要表現に関連している番組をピックアップして生徒に視聴させた。特に『ミニ英会話・とっさのひとこと』や『100語でスタート! 英会話』は時間的にも5分、10分と授業の中で使いやすく、楽しめる内容で生徒にも好評であった。

3. おわりに

教室設備の関係で毎時間のように視聴覚機器を活用することはできなかった。しかし、予想はしていたが、毎回活用するよりは逆に授業にメリハリが出て、生徒たちの集中度も増したようであり、実際にそういった声が聞かれた。私たちは授業のマンネリ化を防ぐためにさまざまな工夫を凝らす必要がある。視聴覚機器の活用はその1つの手段でもある。

ただし、その活用の効果は絶対ではない。現状の教室において、私個人は、チョークと黒板があれば生徒が十分理解し、活動する授業を展開できる教員でありたい。そのうえでより理解を深めさせる効果のあるさまざまな視聴覚機器を活用できるようになりたい。機器を扱える知識・技術を身につけるだけでなく、活用する効果をよく吟味し、ほんとうに効果のあるときに活用できる判断力を養いたい。

(愛媛県立今治北高等学校教諭)

英語 I 学習指導案

授業者		清水 幸一		
学科	普通科	学年・組	1年 7組	
日時	平成15年11月7日(金) 第6限			
教室	特1教室	使用教科書	POLESTAR English Course I (SUKEN SHUPPAN)	
単元	Lesson 6 The Trip That Changed My Life — Hoshino Michio			
指	1 星野氏が自分の夢を実現するためにとった行動について考えさせる。	指	1 Pre-reading tasks, Part 1	
導	2 人生や職業選択について考えさせるきっかけにさせる。	2 Part 2		
目		3 Part 3 (本時)		
標		4 Part 4		
		5 Part 5		
		6 Comprehension, Info-Box		
		7 Exercises, Let's Try		
主題(教材)	Lesson 6 The Trip That Changed My Life Part 3			
前時の課題	Part 2の復習プリント			
目標	1 写真なども参考にしながら、アラスカに住む人々の人となりについて文章から想像させる。 2 現在分詞を用いる分詞構文の基本的解釈を理解させる。			
指	学習活動	時間	指導上の留意事項	
	導入	前時の復習を行う。	3分	・復習プリントを活用し、英問英答を行う。 ・内容を理解し、英語で答えられるか。
進	1	新出単語を確認する。	6分	・大きな声で読ませる。 ・別の英語での言い換えをさせる。
	2	本文を読む。	5分	・コーラスリーディングをさせる。 ・意味のまとまりに注意させる。
	3	重要語句・構文を確認する。	8分	・簡単な分詞構文を理解させる。 ・既習事項を確認させる。
	4	内容理解を行う。	15分	・アラスカに着いたときの星野氏と周囲の人々の様子を理解させる。
程	5	本文を読む。	10分	・Read and look up 形式で chunk repetition をさせる。 ・ chunk をとらえ、読むことができるか。
整	まとめ	本時のまとめを行う。	3分	・内容が理解できているか確認を行う。 ・復習プリント
備	普通科 男子16名・女子24名 計40名			

▲ 校内研究授業時の学習指導案